しょう太くんとあやちゃん
どうしたら いいかな？

内閣府男女共同参画局
男女共同参画推進連携会議
お茶の水女子大学　サイエンス&エデュケーションセンター

目次

❶ あやちゃんの青いラジコンカー …… 2

❷ 小学校の事件（じけん） …… 8

❸ 子ども大統領（だいとうりょう） …… 15

❹ 私たちの未来 …… 19

❺ あやちゃんのやりたいこと …… 26

1 あやちゃんの青いラジコンカー

しょう太くんは小学1年生。
きょうはお友だちのあやちゃんが、今、一番大事にしている
おもちゃを持って遊びに来ることになっています。何を持って来るのかな。
しょう太くんはとても楽しみにしています。

「でもね、あやちゃんはすぐ『私のほうがおねえさんよ。』って言うんだよ。
あやちゃんは4月生まれでぼくは10月生まれだから。」

ピンポーン。

「あ、来た来た。いらっしゃーい。
あやちゃん、大事なおもちゃ、持って来た？」

「しょう太くん、こんにちは。持って来たから一緒に遊ぼ。」

あやちゃんは、持って来た大きなふくろの中から、大事そうに、おもちゃの入ったはこをとり出しました。

「じゃあ、見せてあげるね、これが私の一番大事なもの。じゃーん。」

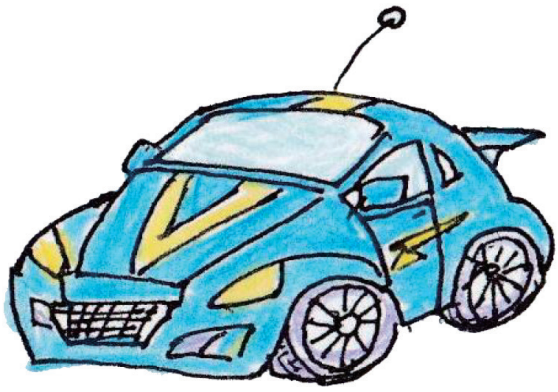
それは青いラジコンカーでした。しょう太くんはびっくり。

「えー、あやちゃん、車が大事なものなの？ぼくもいま、ミニチュアカーが一番大事な宝物なんだよ。」

「そうなの？　見せて、見せて。すごーい。いっぱいあるのね。」

「ね、すごいでしょ。」

「私もミニカー持ってるわよ。でも、今は、ラジコンカーが大好き。ほら、こうやると前進。右に転回ー。」



「ぼく、あやちゃん、お人形さんかぬいぐるみを持って来ると思ったよ。」

「お人形さんも好きよ。ぬいぐるみも好き。
でも、ラジコンカーは前からほしくて、ずっとおねだりしてたの。
小学生になってから、たくさんおてつだいしたので、買ってもらったの。
だからね、今はこれが一番好きなの。」

「へえー。それ、かっこいいね。」

「そうでしょ。これはカーレースに出る本物とそっくりなのよ。
タイヤのところだって本物みたいでしょ。
私はしょう太くんよりおねえさんだから、宝物だって、
しょう太くんより大人っぽいのよ。」

「ほらー、またすぐに、おねえさんって言っていばるんだよ。
なんだよ。あやちゃんは女の子なのに車が好きなんておかしいよ。へんなの。」

「おかしくないわよ。女の子だって、車が好きでもいいでしょ。
それに、すぐに女の子だからって言うの、おかしいわよ。
私、大きくなったら、車を作る人になりたいんだもの。」

「女の子が車のおもちゃが好きなんて、おかしいよ。
色も青だし。青は男の色だよ。
それに、車を作るのは、男の人の仕事でしょ？」

「そんなこと言う、しょう太くん、きらいよ。」

あやちゃんは、ぷん、と怒って、帰ってしまいました。

◇　◇　◇　◇　◇

その晩、しょんぼりしているしょう太くんに、おかあさんが声をかけました。

「しょう太、あやちゃんに、女の子なのに車が好きなのはへんだって
言ったの？」

「うん、だってあやちゃんが、『自分の方がおねえさんだ』って言っていばるんだもん。女の子がいばるのだって、へんだよ。」

「あらあら、しょう太、男の子がしょう太にいばるんだったら平気なの？」

「ううん、いばる子はみんないやだ。」

「そうよね、女の子だからとか、男の子だからとか言うのは、おかしいわよね。」

「・・・・・・」

「それに、女の子はお人形さんで遊ぶとか、男の子は車で遊ぶとか、きめてしまうのはおかしいでしょ？
あやちゃんが大人になって車を作る人になるのも、すてきなことよ。
しょう太も小さいときから持っている、くまちゃんのぬいぐるみ大好きでしょう？」

「うん、そうだね・・・、あした、あやちゃんに、女の子なのに・・・なんて言ってごめんねってあやまろう。」

「さすがー、しょう太、ちゃんと考えられるわね。」

考えてみましょう

1 あやちゃんは、なぜ怒って帰ってしまったのでしょう？

2 しょう太くんが「女の子が車のおもちゃが好きなんて、おかしいよ」と言っているのを、あなたはどう思いましたか？

3 女の子が車を作る人になるのはおかしいと思いますか？

4 あなただったら、しょんぼりしているしょう太くんに、どんなふうに言ってあげますか？

② 小学校の事件

次の日、しょう太くんとあやちゃんは仲直りしてたくさん遊びました。

でもその日、小学校では事件がありました。アメリカから来たサムくんがサッカーのゲームに入ろうとしたら、仲間はずれにされたのです。

しょう太くんは、夕方、学童保育に迎えに来てくれたおかあさんにこんな話をしました。

「ママ、きょうね、1組のサム君と遊んであげない、って言った子がいたんだって。木村先生が、話してくれたの。」

「ああ、おとうさんのお仕事のつごうで、アメリカから来てる子ね。ママも、サムくんのおかあさんとお話ししたことあるわ。」

「あの子、サッカーがうまいし、背が高くって、かっこいいんだよ。でもね、外国人で眼の色やかみの毛の色や肌の色がみんなとちがうから一緒に遊んであげない、って言った子がいたんだって。」

「しょう太はどう思った？」

「ぼく、仲間はずれにされるなんて、とってもいやだ。それでね、木村先生がね・・・。」

仲間に入れないって言われたら、
どんな気持ちになる？

「木村先生が、『もしも、アメリカの学校に、みんなが行って、そんな肌の色やかみの毛の色をした子は仲間に入れないって言われたら

どんな気持ちになる？』って、みんなに聞いたの。
そしたら、みんな、そんなのいやだって、言ったんだ。」

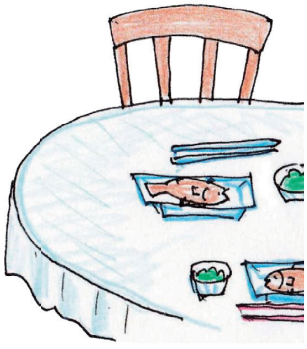
「そうね、ママも大事なしょう太がそんなことをされたら、
本当にかなしいわ。」

「木村先生はね、『サムくんはアメリカから日本に来ています。
アメリカには世界のいろいろなところから人々が集まっていて、
いろいろな肌の色の人や、いろいろな顔かたちの人、そして
いろいろな考え方の人がいるんです。』って教えてくれた。
『サムくんの家族は、眼の色や肌の色があなたたちとちがっているけれど、
それはみんなが黒っぽい眼やかみの毛の色をしているのと同じように、
サムくんがおかあさんやおとうさんから受けついだ、大事な性質です。』って。
それから木村先生は、『自分の顔かたちとか、毎日何を大切にして
生活しているかとか、どんなことを信じているか、というようなことは、
その人の本当に大事なことなのです。だから、そういうことを理由にして
仲間はずれにしたり、人の悪口を言ってはいけません。』って言ってた。」

「木村先生さすがー。ママ、木村先生に大賛成。」

◇　◇　◇　◇　◇　◇

しょう太くんが家に帰ると、今日は先に帰って来ていた
おとうさんが、ごはんの用意をしてくれていました。



「あ、納豆だ。ぼく、納豆好きなんだ。」

「そうかい、でも、ちゃんとおさかなも
食べなくちゃいけないよ。」

「サムくんだって、最初、納豆がくさくて大きらいだったから、
ぼくが朝、納豆ご飯食べてきた、って言ったら、
とってもいやな顔をしたことがあったんだよ。」

「そうかあ？　でも今は気にしなくなった？　それはよかったね。世界中には、いろんな人たちがいろいろな生活をしているから、ちがっているのは当たり前だよ。
自分たちの見た目とちがうことや、いろいろな物事のやり方がちがうことに文句を言う人は、反対に、自分のようすや大事にしていることに、人から悪口を言われてしまっても文句が言えないよね。
自分の大事なこと、大切にしていることを自分で守れないような、なさけないことになってしまう。」

「木村先生は、みんなはそんなことをする人にならないでね、ってお話ししてくださったのね。」

「ねえママ、ぼく、このあいだ、あやちゃんに、
『女の子なのに青いラジコンカーが好きなんてへんだ』とか
『車を作るのは男の人の仕事だよ』って言っちゃったでしょう。
あやちゃんの大事なことに悪口言っちゃった。」

「しょう太、よく気が付いたわね。
女の子でも、男の子でも、自分の好きなこと、やりたいことを
どんどんやる人になれるといいわね。ママも大好きなお仕事、がんばってるのよ。
パパも、代わりばんこにしょう太をお迎えに行ってくれたり、
お夕食を作ってくれたりするでしょう？」

「うん、パパの作ってくれた煮魚もおいしかったよ。」

「おう、サンキュ。」

「しょう太も、ほかの人が大事にしていることを大切にしてあげて、
しょう太自身の大事なことも、ずっと大切にしていってね。」

「男の子も女の子もだれだっておんなじだよ。一人の人間として
ちゃんと生きていける、心の強い大人になってほしいな。
そうすれば自分とちがうところがいろいろある、ほかの人たちのことも
きちんと考えることができて、仲良しになれるよ。」

「うん。ぼく、あやちゃんやサムくんたちと仲良くできるよ。
あした、木村先生にそうお話ししようっと。」

考えてみましょう

1 肌の色やかみの毛の色で仲間はずれにされたら、あなたはどんな気持ちになるでしょう。

2 あなたがしょう太くんだったら、サムくんが仲間はずれにされそうになったとき、みんなにどんなふうに言えばいいと思いますか？

3 いろいろなところがちがっている人といるとき、どうすれば仲良くできると思いますか？

③ 子ども大統領

しょう太くんたちは、もうすぐ4年生になります。しょう太くんの小学校では、子ども大統領の選挙が毎年3学期に行われます。

次の年の6年生の子ども大統領が、小学校の1年間の目標を決めて、4月からいろいろな委員会の委員たちと計画を立てて、小学校生活を楽しく良いものにできるよう、実行していくのです。

きょうの全体朝会で、来年度の子ども大統領選挙の立候補者の意見発表が行われました。

しょう太くんたち3年生も、選挙で、来年の子ども大統領を選ぶ投票をすることができます。

しょう太くんとお友だちのあやちゃんは、教室にもどってから、立候補者についていろいろ感想を話しています。

「あやちゃん、5年2組の林ゆうすけ先輩、すごいよね。」

「かっこよかったー。
林先輩はいつも、サッカー部で大活躍だものね。」

「副大統領候補のえみ先輩も、
『私もしっかり支えてがんばります』って言ってたし。
ぼく、林先輩とえみ先輩の二人に投票しようっと。」

「小学校を良くする、いろいろな計画を立てようとしてるところがすごく良かったわよね。
わたし、5年生になったら、絶対に子ども大統領に立候補するわ。
しょう太くん、副大統領候補になってよ。二人で立候補しようよ。」

しょう太くんはびっくりしてあやちゃんを見ました。

「あやちゃん、副大統領じゃなくて、大統領？
子ども大統領って、いつも男子がやってるんじゃない？
立候補しても、きっと男子に負けちゃうよ。」

しょう太くんがそう言うと、あやちゃんもしょう太くんを見ました。

「女子が大統領をやったらだめなの？　どうして？
大統領は男子がいいってみんな思ってるの？
そんなのおかしいわ。女子だってできると思うなあ。」

と、あやちゃんが言うと、しょう太くんは何も言えなくなりました。

あやちゃんは怒って、だまっています。
しょう太くんもすっかり考えこんでしまいました。

考えてみましょう

1 子ども大統領にはどんな人がふさわしいと思いますか？

2 それは男の子がなる方がいいと思いますか？
女の子はどうですか？

3 しょう太くんは、あやちゃんになぜ「副大統領じゃなくて大統領？」と聞いたのでしょう。

4 あなたならしょう太くんとあやちゃんにどのような言葉をかけてあげますか？

4 私たちの未来

しょう太くんは小学5年生になりました。近所に住む同級生のあやちゃんとは、小さいころからとても仲良しです。

ある土曜日の午後、しょう太くんは、宿題を一緒(いっしょ)にやろうと、あやちゃんの家に出かけました。あやちゃんは、おばあちゃんとおしゃべりをしているところでした。

「おばあちゃんにね、新しく、私たちと同い年の孫ができたのよ。」

「えっ、どういうこと？」

あやちゃんのおばあちゃんは、遠い国の女の子を応援(おうえん)する団体のメンバーになったのだそうです。

「あなたたちと同い年の女の子が勉強を続けられるよう、応援(おうえん)することにしたの。その国では、女の子が勉強を続けるのがとても難(むずか)しいんですって。

英語でお手紙を出すのよ。あなたたちもひとこと、書いてみる？」

あやちゃんとしょう太くんは、おばあちゃんに手伝ってもらいながら、得意なスポーツのことや、大好きなアニメのことなどを伝えました。

ーか月ほどたって、おばあちゃんに返事が来たことを聞いて、しょう太くんはまた、あやちゃんの家にやって来ました。

その女の子は、8人兄弟で、お姉さんがー人、弟が5人、妹がー人いるそうです。そのほかにも病気で亡くなった妹がいたので、お医者さんになりたいと思っていると書いてきていました。

しょう太くんやあやちゃんと友達になりたいと言っています。

「8人！　兄弟がいっぱいいるんだね。」

「お姉さんと一緒でも、弟や妹のお世話はたいへんだろうなあ。」

と、しょう太くんとあやちゃんがびっくりしていると、おばあちゃんも、

「えらいわ、お医者さんになって、みんなを助けたいのね。」

と感心しています。おばあちゃんは、その子の両親にはちゃんとした仕事もなくて、子どももたくさんいるため、食べさせることも十分できない、子どもを学校に行かせることも難(むずか)しいという話を聞いていました。

「あのね、子どもがたくさんいてお金が足りなくて、兄弟全員を行きたい学校に行かせるのは難(むずか)しい、というのは、ちょっと前の時代の日本でも、よく聞くお話だったのよ。そしてそういう時、たいてい、男の子を学校に入れて勉強させたの。女の子は進学をあきらめて、働きに出たり、おうちで下の子どもたちのお世話(せわ)をしたの。」

おばあちゃんは悲しそうな顔をしました。

「えーどうして、男の子だけ学校に行かせたりしたの？」

「女の子だって勉強したい子はいるわ。」

「本当ね。昔は、女の子はおうちのことをして、男の人を支えなさい、っていう考えだったの。おかしいわね、女の人は男の人を支えて、自分はやりたいことを我慢するなんて。

おばあちゃんも大学に行きたかったけれど、お父さんに、女はそんな必要ない、って言われたのよ。今でもそう言われる人もいるかもしれないわ。でも、女の子だって、だれだって関係ないわ、やりたいことはやってみたらいい。だからおばあちゃんは、男の子でも女の子でも、チャンスを逃さず、なんでもいっぱいやってほしいの。」

「女の子のほうがご飯を作ったり、着替えさせたりするのが上手なのかな。うちではパパも夕飯を作ったり、ママと一緒に仕事の話なんかしながら、お皿洗って片付けたりしているよ。ぼくもちょっと面倒くさいけど、掃除機かけたりするよ。」

「しょう太くんのパパとママ、素敵ね。しょう太くんもえらいわ。」

「私、いろんな人の話を聞いたり、本を読んだり、いっぱい考えて、やりたいことをがんばれる人になりたいな。そしておばあちゃんみたいに、がんばっている人を助ける人になりたい。」

あやちゃんは、おばあちゃんに一生懸命、話をしていました。

◇　◇　◇　◇　◇

しょう太くんはうちに帰って、お母さんにその話をしました。

お母さんは、日本では夫婦とも働いていても、帰ってから家の仕事をするのは主に女性で、妻が家の仕事を夫の二倍以上やっているという、最近の調査があったと話してくれました。

しょう太くんは、遠い国で、勉強がしたい、学校に行きたいと願いながら、小さい弟や妹の服の洗濯をしたり、ご飯を食べさせたりしている女の子のことを思いました。

「なぜ、女の子はやりたいことをやれない、ってなるんだろう。

掃除や洗濯、おうちのことをしなきゃならない、ってなるらしいけど、なぜ女の子がやらなきゃならないんだろう。

女の子が我慢してつらい気持ちになっていたら、僕は楽ができたっていやだな。

一緒にやったらいいのに。」

しょう太くんは、あやちゃんがおばあちゃんに、どんな人になりたいか話していた時のことを思い出しました。

そして、自分はどんな大人になりたいのかなあと気になり始めました。

考えてみましょう

1 掃除や洗濯、ご飯のしたくや食器洗いは女の人の仕事だと思いますか？

2 学校や社会で楽しい生活をするために、家ではどんな準備や後始末が必要でしょう。それはだれか、自分ではない人にやってもらうことが当たり前でしょうか？

3 どのようにすれば、公平で様々な人が気持ちよく暮らせる社会になっていくでしょうか。

⑤ あやちゃんのやりたいこと

今日は学校で、「先輩の話を聞いてみよう」という会が開かれました。これは、しょう太くんたちの小学校の卒業生で、大人になっていろいろなところで活躍している人に、学校へ来てもらって、今の仕事のことやこれまでのことを、みんなに話してもらう会です。

今回、お話をしてくれたのは、薬を開発して販売する大きな会社の部長さんで、山田みどりさんという女性でした。

山田さんは、大学を卒業して製薬会社に入社し、主に新しい薬の開発をする部署で働いてきたそうです。そして次に移った部署は、その会社が社会に役立つ仕事をしっかりと正しく続けていけるように、自分たちで考えていくという仕事をするところでした。そして現在は、会社をどのように発展させていくか考える、重要な立場になっているそうです。

山田さんは、その間に結婚して、お子さんたちも二人います。

「とにかく毎日忙しくて、夫がおむつもかえたり、保育園に送り迎えしたり、離乳食も食べさせたり、子育てはずいぶん助けてくれたのよ。子どもたちはおふろもパパと一緒。私があまり世話ができないから、子どもたちも、自然と自分のことは自分でできるようになったのよ。」

と、笑いながらお話ししてくれました。

質問コーナーでは、あやちゃんが手を挙げました。

「薬を作る人になろうと考えたのはどうしてですか？会社の仕事はたいへんですか？」

「大学では薬学部というところで薬の勉強をしていたので、就職するとき、今の会社を選びました。まだその病気に効く薬がなくて苦しんでいる人たちのために、新しい薬を作り出す仕事をしたいと考えたからなの。すごく一生懸命に研究したのよ。

誰かの役に立つ仕事って、本当に楽しいわよ。今は、会社がきちんとうまく続くよう

にがんばる仕事に移ったけれど、これも大事だし、おもしろいの。でも今の部長という役職についたばかりの時は、女性はめずらしかったので、少し苦労しました。

色々な意見が分かれてまとめなければならないとき、あまり慎重になると『女性は決断力がない』と思われるかしらと気になったり、『こうしましょう』と発言すると『男性並みの強さですね』とか言われて、ちょっとがっかりしたこともあったのよ。今は、『そんなの関係ない。私という人間がしっかり判断したこと』と言えるようになったわ。」

他の人からも色々質問が出て、元気で明るい山田さんの答えに、みなとても楽しそうでした。

会が終わってから、しょう太くんはあやちゃんに聞いてみました。

「山田さん、すごいね。あやちゃんはどう思った？」

「本当にいいなあ。ああいう人になりたいな。あのね、私、小さい時、車を作る人になりたかったでしょう？無理かなと思ってたんだけど、やっぱりやりたいな。この間、授業で、温暖化の話を勉強したわよね。車の排気ガスも温暖化の原因の一つだって。それで色々な会社が電気自動車を作ろうとしているって。私、車のエネルギーのことが勉強したい。みんなに便利で、でも地球がダメにならない方法を考えたいな。おもしろいと思うんだ。」

「そうなんだ。女の人は普通、あまり理科とか科学の仕事をしないよね。えーと・・・・・」

考えてみましょう

1 しょう太くんは最後のところで、あやちゃんに何と言ったと思いますか？
この先はみなさん、それぞれ考えてください。
あなたならどんな言葉をあやちゃんにかけますか？

2 あなたは大人になったらどんな仕事をしたいですか？
女の人には向かない仕事、男の人には合わない仕事があると思いますか？

年

組

小学生版　男女共同参画教育教材
「しょう太くんとあやちゃん　どうしたらいいかな?」
令和3年3月発行
内閣府男女共同参画局
男女共同参画推進連携会議
お茶の水女子大学　サイエンス&エデュケーションセンター